

第4回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会 議事録

1 日 時 平成 27 年 11 月 26 日（木曜日） 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで

2 場 所 長野市民病院 2 階 市民健康ホール

3 出席者

(出席委員)

小口 壽夫	委員長代理
池田 修一	委員
岩野 彰	委員
小林 邦一	委員
畠山 悦子	委員
本道 多加子	委員

(委員以外の出席者)

竹前 紀樹	(長野市民病院病院長)
平井 一也	(同 副院長)
藤澤 和子	(同 副院長)
宇野 康隆	(同 診療技術部長)
篠原 邦彦	(同 事務部長)
渡辺 敏明	(同 企画財務課長)
福島 孝志	(同 総務人事課長)

(事務局)

田中 幸廣	(長野市保健福祉部長)
黒岩 章彦	(長野市保健福祉部医療事業課長)
西山 純一	(同 医療事業課長補佐)
村木 裕一郎	(同 医療事業課係長)
宮尾 和弥	(同 医療事業課係長)
大澤 孝信	(同 医療事業課主査)

4 議事

- (1) 地方独立行政法人長野市民病院中期計画(素案)について
- (2) 委員長互選

5 その他

- (1) 地方独立行政法人長野市民病院へ承継させる権利及び義務について
- (2) 今後の予定について

(午後 2 時 開会)

(事務局)

委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

ただいまから、第 4 回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を開催させていただきます。

本日の会議につきましては、3 時半くらいを目安に終了を予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。

また、本日の委員会につきましては、公開で行い、議事録調整のため録音をさせていただきますので、御了承をお願いいたします。

会議に入ります前に、事務局から連絡事項を申し上げます。

(事務局)

11 月 18 日の定例記者会見において、地方独立行政法人の理事長兼病院長予定者を公表いたしましたので、ご紹介をさせていただきます。

<資料により説明>

(事務局)

続きまして、事務局から新たに評価委員会にご就任いただきました委員をご紹介申し上げます。

(事務局)

本委員会の委員長を務められておりました小池健一氏が、一身上の都合により、平成 27 年 10 月 20 日をもって退任されました。

これに伴いまして、新たに国立大学法人信州大学で副学長、医学部長であります池田修一先生に委員として加わっていただくこととなりましたのでご紹介申し上げます。

(池田委員)

池田でございます。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

なお、お手元に新たな評価委員名簿をお配りしておりますので、ご覧ください。

小池委員長がご退任されたことに伴いまして、地方独立行政法人長野市民病院評価委員会条例第 5 条第 3 項の規定により、本日は小口委員に委員長代理をお願いさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、委員長代理の小口委員からご挨拶をいただきたいと存じますので、お願いいたします。

(小口委員長代理)

小口でございます。本日、委員長代理を務めさせていただきます。議事の進行を務めさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

新しい委員として池田医学部長に委員となつていただき、本当に心強く思っております。よろしくをお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、第3回の評価委員会議事録の確認をいたしたいと思っております。資料とともにお送りしてございますが、何か修正事項等ありましたら、ご指摘願います。

(指摘事項なし)

それでは議事に入らせていただきます。

評価委員会条例第6条第1項の規定に従い、小口委員長代理に議長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

(小口議長)

それでは、(1) 地方独立行政法人長野市民病院中期計画(素案)について審議に入らせていただきます。

中期計画は地方独立行政法人法の規定で、市が定めた中期目標を達成するための計画として法人が作成することとなっておりますので、長野市保健医療公社に説明をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(竹前院長)

議長、ひとこと御挨拶をさせていただきます。

私、竹前は平成28年3月31日をもって退任いたします。20年間、市民病院に勤めさせていただきました。ありがとうございます。

市当局、信州大学をはじめ多くの医療機関、多くの人々に支援をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、一緒に勤めた病院職員の皆さんにも、本当にありがたく思っております。

先ほどのご説明のとおり、4月からは池田宇一教授が来られますので、全職員で医療の質・経営の質の両立をして、地域住民により良い医療を提供できる病院になっていただきたいと思います。長野市民病院にこれからも変わらぬご支援をお願いいたします。

それでは、「長野市民病院」という資料をご覧ください。中期計画(素案)の説明の前に市民病院の現状を簡単にお話したいと思います。

<資料について説明>

それでは、中期計画(素案)について、職員から説明をいたします。

(公社)

<資料1 説明>

(小口議長)

ありがとうございました。ただいま中期計画(素案)について説明いただきましたが、質問、ご意見を賜りたいと思います。

(本道委員)

2ページと3ページの【目標指標】の、「救急車搬送受入件数」と「がん新入院患者数」に、それぞれ平成26年度実績と平成30年度目標とありますが、この目標とはどういった意味でしょうか。

私は目標という言葉は、何か努力をする目的という意味だと理解しているのですが。

(公社)

目標値と申し上げたほうが解りやすいかと思います。具体的には平成26年度の救急車受入件数が4,365件ですが、これを中期計画が終わったときに何件にしたらいいかということです。その件数を目指して運営をしていくということです。

がん新入院患者数であれば、「平成30年度が終わった時点で何人を目標にやっていくか」という、達成を目指した目標値を平成30年度の欄に記載していきたいと考えております。

(本道委員)

これらは受け入れる数です。こちらから「来てください」と言うのではなく、患者が来るものですので、その目標値という表現に違和感を覚えたのでお聞きしております。

(公社)

確かに、おっしゃるとおりです。ビジネスと、医療とは必ずしも同じではありません。

医療においては、質の高い医療を提供して、地域の皆様に貢献するというのが大きな目標であり、その結果、患者さんや救急搬送が増えるということだと考えます。

「一台増やすために、こういうことをする」という目標ではなく、質の高い医療を目指して活動した結果が、こうした指標に繋がるという意味で考えております。

(本道委員)

わかりました。

(小口議長)

市民の目線から考えると大事なことです。病気を増やしたり、事故を増やしたりするのかと受け取られてしまいます。決して、そういう意味ではないのですが。

他に、ご意見、ご質問はありますか。

(島山委員)

今の目標値のところ【目標指標】と【関連指標】は今までも、前年を参考にして次年度の目標値を上げていたと思います。この目標値を上げるときに、8ページの「1 業務運営体制の確立」の(1)PDCAサイクルの項目中、「ウ」にバランスト・スコアカードの活用とありますが、そのかたちで進めるのか、それとも単発で目標値を上げていくのか、どのように進めるのでしょうか。

(公社)

バランスト・スコアカードについては、現在、病院の中で運用しております。

仕組みとしては、まず大きな方針を決めて、その方針を各部門なりに展開して目標設定することとなっております。従って、各部門においては多くの細かい目標設定がありますが、病院全体としては、それを象徴するような大きな目標を作るということをやっております。

関連指標等については「この指標は、この部門の目標」というようなかたちで展開されていくと考えます。ただ、中期計画という病院全体の計画の中では、ひとつ象徴的な大きな目標を設定しなければと思っております。

(島山委員)

わかりました。そのようになっていると、より具体化してると思います。

それと、3ページの、がん診療の【関連指標】は4つ挙げてありますが、これ以外にも、がん登録とか、人材育成にも関連しますが、がんに関する有資格者の育成なども目標として挙げていくのはいかがでしょうか。

(公社)

がん登録については、登録の期間が1月～12月の暦年であります。こちらは病院の中でも「目標にするべきではないか」という議論もありましたが、病院は年度で運営しているため、目標にはしないという結論になりました。

有資格者については、また検討させていただきたいと思っております。

(小口議長)

他に、ご意見等ありますか。

池田委員は、診療体制など大学の立場から見て、何かございますでしょうか。

(池田委員)

お話を伺っていて、公立病院も信州大学も難しい問題を抱えていると思います。病院の特色化という問題と、地域住民へのサービスを両方同時にやっていかなければいけないが、それは難しいことだと思います。

今までの長野市民病院の歩みを見ると、やはり、がん診療を中心に特色化を進めてきていると思いますが、先ほどの説明を聴くと「糖尿病も扱う、不妊症も扱う」と地域サービ

スの向上を併せてとなると、難しいテーマになっていくと感じました。

(小口議長)

私のほうからも。長野市医師会との詰めは、ある程度できているのでしょうか。

(事務局)

目標に関しては医師会のご意見を伺っています。計画についてはこれからです。

(小口議長)

医師会側と齟齬^{そご}が出てきたりすると良くないと思ったので、よろしくをお願いします。

もうひとつは、私も院長を辞めてから思うことは、病院は従業員がとても大変な所。職員の満足度というところに、もっと力を入れたかったと思っています。

市民病院は恵まれていますから問題ないのかもしれませんが、この中期計画の中で触れられている部分が少なく感じます。患者さんは当然ですが、職員を大切に作る病院という位置づけを中期計画の中に入れてもいいかと思いましたが、いかがでしょうか。

(公社)

おっしゃるように、病院としては職員が一番の資本であるということで、この中期計画を作るにあたって病院の中でもプロジェクトチームを作り、議論してまいりました。その中で、研修体制の充実や、キャリアアップの充実といったところは、従来にも増して力を入れるべきではないかということで、教育研修センターの設置が加わっております。

それから、働きやすい職場環境の整備。子どもを持つ職員の働きやすい環境を整備するのはもちろんですが、更衣室や休憩室などの基本的な場所も窮屈になってきているということなので、考えていかなければいけない。そうした満足度を高めるための共有意識が、この計画を作る中で共通認識として出てきています。満足度については、おっしゃるように、なかなか表現できない部分ではありますが、今回の中期計画の中では重要な部分と捉えて進めていきたいと思います。

(小口議長)

市民病院は、かなりスペースに余裕をもって造っていましたが、ここへ来て職員が増えていきますよね。そうすると、いろんな部分で窮屈になってくる中で、職員の満足度というものをはっきり文章化してやっていったほうがいいと思います。

他に、ご意見、ご質問等ございますか。

(質疑なし)

(小口議長)

それでは、この中期計画(素案)について、本日の審議内容を踏まえ修正をお願いします。

次回の評価委員会では、中期計画（案）として、改めてご審議いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

（小林委員）

議長、よろしいでしょうか。先ほどの、職員の満足度については組織にとって非常に大事で、病院で働く方が充実感を感じられないと、そのまま医療の質にも影響すると思います。

そうした意味で、何をもちえて満足と言うかということ、先ほどの設備に関することももちろん大事ですが、努力したことが正当に評価されるということが非常に大事だと思います。

一番、良くないのは、評価尺度をその時の都合で変えてしまうこと。以前も申し上げましたが、成果が医療収入として現れてくると思うが、そういう意味で繰入金調整すると、結果的にやってきたことが見えなくなってしまう。そこをきちんとした上で評価して、その上で3年ごとに変えるのはいいと思うが、同じ尺度にしておかないと。こうした評価制度というのは大事だと思います。

（小口議長）

今の内容は組み込めますか。お考えいただきたく、次回の評価委員会で中期計画（案）としてご審議いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、小池委員長が退任されたことを受けまして、本日は、私が委員長代理を務めさせていただきますが、改めまして、委員長を選出したいと思います。

委員長は委員の互選によるとなっておりますが、私としましては、小池元委員長と同じ信州大学の小池委員に委員長を務めていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

（各委員）＜賛同＞

それでは、池田委員長からひとこと挨拶をお願いいたします。

（池田委員長）

ただいま、ご指名をいただきました信州大学の池田でございます。

私は外部の病院と係るのは初めてでございます。大先輩の小口先生に務めていただければと思っておりましたが、ご指名をいただいたのでお引き受けします。

慣れない仕事ですので、ぜひサポートのほどをよろしくお願いいたします。

（小口議長）

それでは、よろしくお願いいたします。次回の評価委員会から、池田委員に委員長をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、本日の議事はすべて終了いたしました。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

「4 その他」といたしまして、事務局から「地方独立行政法人長野市民病院へ承継する権利及び義務」についてご説明申し上げます。

<資料2 説明>

それでは、ただいまの説明について、ご質問等ございますでしょうか。

(小林委員)

簿価とはどのくらいの差があるのですか。

(事務局)

土地・建物について不動産鑑定をした結果、平成27年度末で概ね41億円あまり減ることでした。

(小林委員)

評価損が出るということですね。この法人が設立する前の段階で意思決定されて、取得されて、その負債も紐付きで取得したわけですね。含み損をそのまま引き継ぐというのは、いかがなものでしょうか。

(事務局)

地方独立行政法人法では、「引き継ぐ際には時価で評価して、それを承継する」となっておりますので、時価で評価をさせていただいております。

(小林委員)

資産を時価で承継するということですので、その見合いの含み損を作った負債は引き継がなくてもいいのではないかという議論も出てくるのではということです。議会ではこうした質問も出るかもしれないので検討しておいてください。これは逆の場合でも言えることで、現在の資産価値が高くなったものを、当時の小さな負債と引き継ぐだけでいいのか、本来は時価で買うべきではないのかということにもなります。

その辺りの議論はしておいたほうがいいと思います。

(事務局)

移行時に負債が上回る団体であると、自治体から資本を投入しなければいけなくなります。今回の時価評価で資本がおよそ20億円残るという計算になっております。

(小林委員)

わかりました。ただ病院経営責任者からすると、負債は軽いほうがスタートしやすいで

すよね。ご検討ください。

(事務局)

他に、ご質問はございますか。

(質疑なし)

それでは、次に今後の委員会の予定について、事務局からご説明させていただきます。

(事務局)

次回の委員会の日程については、2月上旬を予定しております。

第2回目の長野市議会福祉環境委員会との意見交換会を12月21日の午後5時から開催させていただきます。会場は、市役所を予定しております。1時間半ほどを目安にと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

ただいまをもちまして、第4回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(午後3時30分 閉会)